

923.5
=

一
十
四
孝

全

二十四孝

虞舜 孝感動天

漢文帝 親嘗湯藥

曾參 啣齒指痛心

閔損 單衣順母



二十四

仲由 爲親負米

董永 賣身葬父

剡子 鹿乳奉親

江革 行傭供母

陸績 懷橘遺母

唐夫人 乳姑不怠

吳猛 恣蚊飽血

朱壽昌 棄官尋母

王祥 臥冰求鯉

郭巨 爲母埋兒

楊香

搯虎救父

庾黔婁

嘗糞憂心

黃香

扇枕溫衾

姜詩

湧泉躍鯉

老萊子

戲綵娛親

蔡順

拾椹供親

王裒

聞雷泣墓

丁蘭

刻木祀親

孟宗

泣竹生笋

黃庭堅

滌親溺器

閔損 單衣順母

閔損字ハ子騫ハ孔子ハ弟弟子十哲の一人なり。孝なる哉。
 と孔子のはめさせ給つ人なり。幼して母におもひた。後母
 二人の子ありて己の子に奪ふ。閔損を悪て冬の寒くハ芦乃
 穂を纏ひて居せり。いとも恨をもち孝敬はな
 き。或曰父他へ移る。閔損は御して車のこときと傷て馬を
 御事と令し。肌寒てはもむ事あるに。衣
 着く芦の穂を纏ひて居て大に怒り。継母を去んとす。
 閔損父をいさめて言々。母もせ。我一人を去て二子ハ温
 母をいさされハ二子成昔有るをのみなると。二子もよき
 かん。と。あつれ。父も其理を成り入。母も愧悔て。二子成ひ
 しく。是を。是至孝此人を感せしむる不だ。



仲由 爲親負米

仲由字子路。泗水の人。其性勇敢。のむ。孔門十哲の一人也。
 家貧。一日して。常々藜藿を食す。人よやといき。百里
 のを。さうろ。米。負ひ。こむ。身。苦。し。め。其。賃。を。さう。て。兩
 親。に。奉。じ。ひ。く。父母。没。して。後。楚。國。に。は。く。大。功。と。立。て
 富。貴。の。身。と。な。り。常。々。鼎。を。つ。ね。て。食。し。粟。と。積。置。田。ふ
 事。万。石。よ。及。ひ。出。る。百。輛。の。車。を。さ。う。居。る。錦。の。茵
 を。ま。の。業。耀。う。ろ。う。な。は。さ。う。事。な。り。さ。う。ま。も。し。ら。せ。ん。け
 ち。ろ。こ。び。と。せ。ど。猶。昔。乃。こ。こ。藜。藿。を。味。ひ。わ。づ。れ。賃。米。よ
 身。に。勞。し。つ。父母。を。は。く。を。た。く。思。へ。も。是。の。こ。ん。よ。ら。る。は。と
 と。常。々。涙。を。流。し。て。な。げ。さ。う。孔子。を。聞。は。て。生。き。よ。は。し
 う。る。よ。力。に。及。ぶ。死。せ。よ。は。し。て。思。と。な。す。も。の。也。稱。美。し。好。い



董永 賣身 葬父

後漢の董永字延年、父老母孤、喪ひ常一人を備へて、
 孝心の殊をなせり。父死して葬むべき便なく
 て、日比傭ひ、主人に家より、十貫文を貸て、身を賣り、
 永くその家の奴僕となさんと約束し、其禮を完
 主人の家より還さんとて、路次にて、美しい女と遇り、女
 強て妻となさん事、共主人の家より歸りて、董永の
 暇を乞へ、織三百匹を織た、ん後ゆくと、つるよ、け女
 三百匹の多きを、僅一月の中、畢せり。主人は悦なく、放し
 たり。夫婦喜び連て、げり、遇りて、董永は、我
 天帝の織女なり。君が至孝を、天帝感し、給ひて、我を命じ、
 債銭償せ給ふ。語訖、雲に乗、虚空城凌て、おき去りたり。



刺子鹿乳奉親

刺子ハ其名字時代を詳よせども相傳て孝行れ名を
 稱せり父母老て眼を患くまハ刺子かなし之醫酒瘡ハ
 尽くらるる鹿の乳汁を用きハ愈一とて之をくくると
 得ん事哉おきとも鹿を殺して乳の出る事ありさきハ
 身ハ麻皮を蒸り麻の群まらハよりアよりアて乳汁を
 うかひ求るると猶人実の麻とおきひる近く来りて
 射とらんくくると刺子声をあげく志あくのしと
 述くががさわびくまハまけき猶人もさきより孝心
 感ハ弓箭をふせて通りくるとなんかくんさなうあ
 やつと事をなせりも親をおきふ孝子ハ志強天の
 そなハいて必死の鏃を免せりめ強くなうく



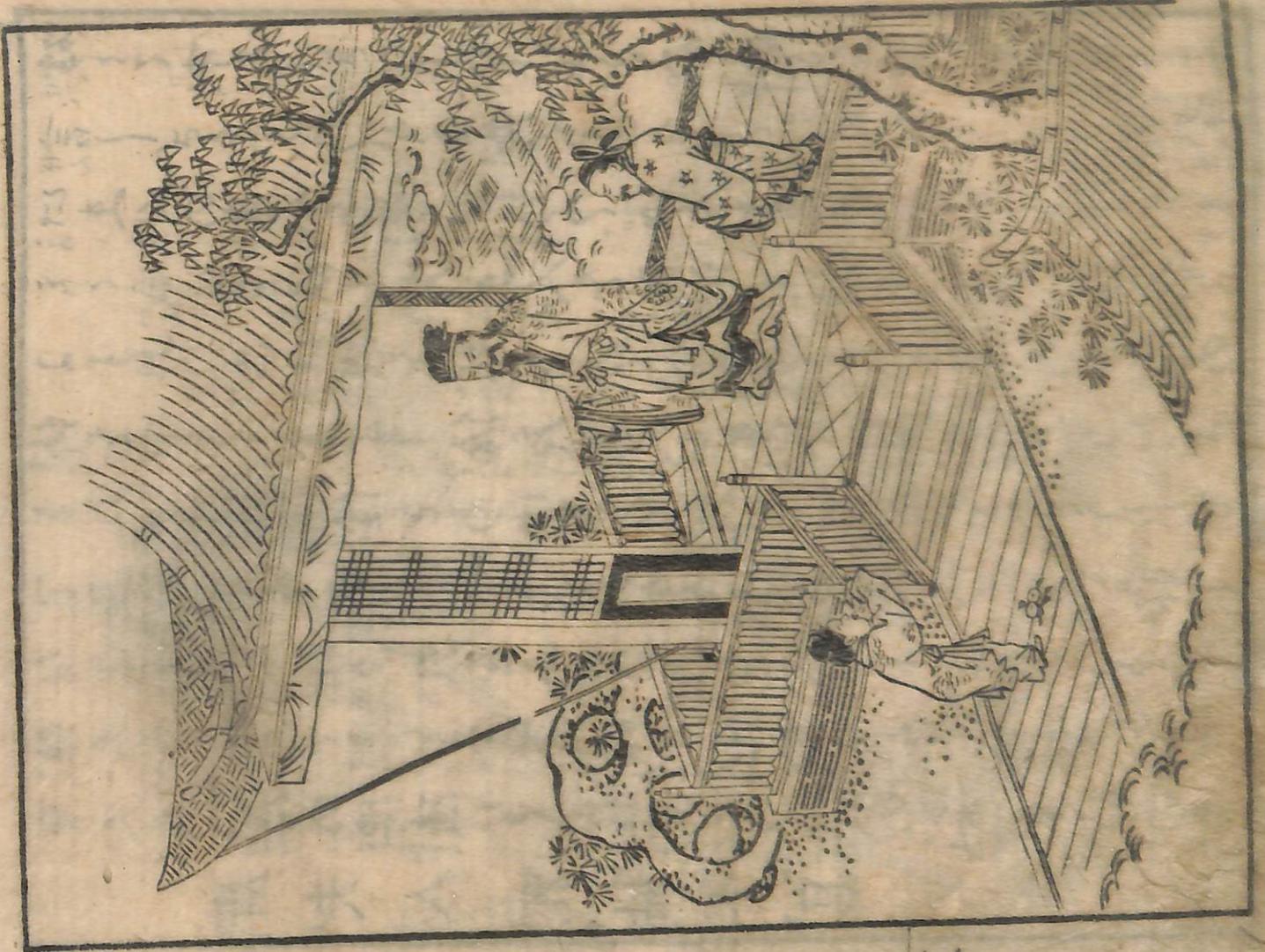
江革 行 備 供 母

後漢の江革字次翁存國臨淄の人なり幼して父を
 おとせ。母は老いて孝行の聞えあり其比天下乱れ
 母を背に負ひ道を通り艱難を経るやうくは柵を
 とめたり。はひし身は裸に足は踏まはく人々備を其賃を
 して母をやしなひなるとあり世をさうて故郷へ
 かつりくる。車はかりてのせまき牛馬もはかどる。路
 せん事。紙をかき。うづり。身は轆の中へ入て引くるな
 ど。とてをを用る事。けたひなるよりて。江巨孝と名
 付て。其名世にあら。巨孝と。大なる孝子といふ事也
 初末めでたく終りれり



陸績 懷橘遺母

陸績字公紀、三國の時、呉に孫權より一人を博學多
 識として呈、歴算數を兼通する者、呉の時に九江郡
 とす所なる表、術として當時威勢ある方、以て橘を出
 して、一を以て陸績に之を三枚を懐して、母の時、獨り
 禮拜する之地におもむ表、術として、其方、實は三枚
 あり、いふが、尾節の事とす、一を以て、陸績
 跪て、兒が為に出して、珍果を以て、一は事、其
 加る、母子に之を教へたる、一は、其母、其表
 術をして、母の幼少、其母を答へて、其母、其
 事、且七者、對するの礼を知り、跪て、奉る、其孝悌、其性、
 事、其感、一を以て、千載の後に、其母、其表、其



吳一猛 恣蚊飽血

吳猛ハいぢきの時れ人といふ事ヲ詳ニせどもハ歳一して孝行
 の名世ニ高シ其家ニやうり多ク夏れ此蚊帳をたう事
 だよなけきバ父母の蚊よなやみ殺さん事蚊のたうニ衣ヲ
 脱て父母よこせせよわらせ赤裸なるかたうけようぢくまり
 通夜口れ中よて唱へ云々ハ蟲敷いりとも公わらハ父母と
 噬事蚊ゆるせよかハ父母ハ年先て血氣うとく我ハやうくよ
 ちちハかんなきバあくもて家城くらぶべとてちひさき身
 のげふもくぬまぞ群うきども身城うごかりてハ父母れ方ハ
 初ん城おきけいしやうと故よあふくわげのハ歳よてかま
 て心を用事あうがくあまなうく今け侍をよふは
 後をえく流を流さふそのハ其人必と不孝れ老なるし



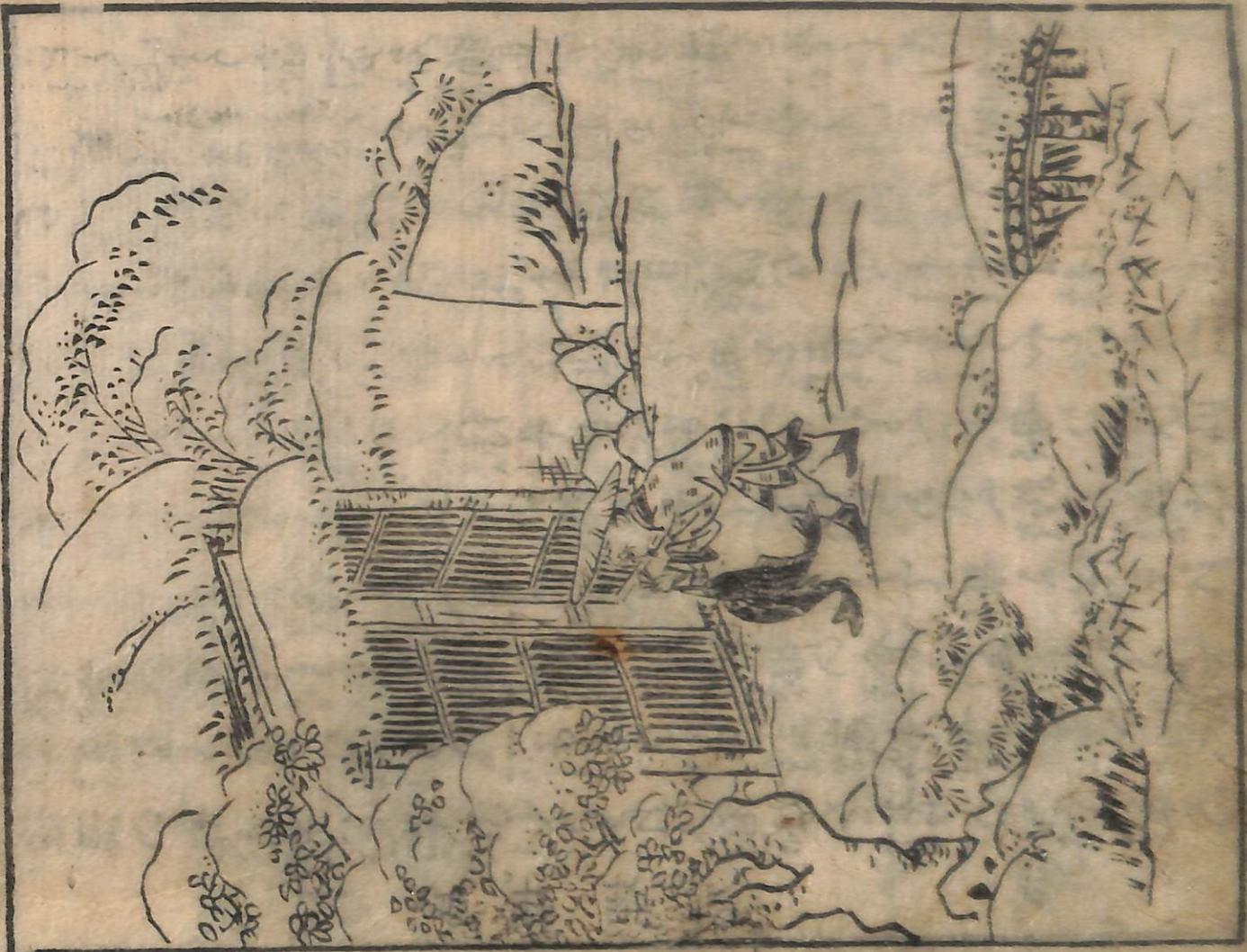
朱壽昌棄官尋母

宋朱壽昌七歲の比父新よ美女を娶て壽昌が母去ける。それより母をんごう事成りけり。三まげきて。一日もわをきざうく。志うきども父又後母よはくして孝道成り。父存生のうち。一旦離別。母がまじ。父への無礼。後母へのまかり成おそひ。公の中よの深く慕ひて。いさゝも色よ出さ。五十年成経て官禄をさて。天よ誓く。謂く。我若母のながく在りて。途をさる。再びあよりく。母よ交るべからずして。行方をさしめり。からう。たつ。さ。時母の齡七十を踏くれ。抑壽をたもちて。めぐ。孝公のまめたるが故。や。通。朝廷。中。事也。顯官厚禄を賜り。となん。実。神宗皇帝。熙寧中。事也。



王祥 臥冰求鯉

晋の王祥字、休徵天性至孝の人なり。継母不慈なるを恨
 とせし念、恭謹せり。父母疾あり。晝夜側せり。手足を解
 湯系せり。冬、氷凍る。母の生
 魚を食ふといふ。氷凍りて魚を取らば。便なげし。其望
 を遂げんと。事なきに。池に臨み。魚を求む。衣を脱ぎ。氷
 の上より。身を温む。氷が割れ。其志の篤に。感應せり。一
 しも。厚氷忽ち解て。双鯉躍出ず。母又黃雀
 の文を。好む。祥、成りて。人事を。欲し。黃雀數十。飛入る
 たり。其孝感の。致す。亦を。郷里に。傳へ。又。聞て。驚美せり。又
 庭。杏ありて。母。実を。母。せし。を。守り。風雨
 発る。時。樹を抱て。泣く。其孝徳。天下に。傳へ。三公。至りて。



郭巨 爲母埋兒

後漢の郭巨。字ハ文舉。孤貧多れば老母を養ふ。食不足ならん事。感ぜり。一子あり。己ハ三歳老母を養ふ。我食の中を分ちあふ。郭巨。母の食れ乏しく。あぶして。妻ハ語りいふ。我身かく養へて。母ハ供らね。事心のやうなう。母の孫を養へて。分ちあふ。我に。くづくおもしろ。主婦の縁をば。子ハ又もあふ。母ハ再ひ。べし。ず。我子。殺して。母を養ひ。んと。おもしろ。いふ。孝子。此妻。涙。言。は。ら。バ。一。思。ひ。埋。殺。さん。と。坑。掘。事。二。三。尺。て。黄金。一。釜。釜。金。の。兩。敷。を。上。の。文。字。あり。曰。天。賜。孝。子。郭。巨。と。比。家。名。顯。孝。道。を。尊。慈。愛。全。く。せ。り。



揚香 檻虎救父

揚香ハ魯國にて揚豊といふ所のむすあなる幼少なる
 深く父はけりて志ざりしに新き虎或時父を食ひて山
 入て薪を採りて大なる虎来りて父を食んとす父刀を
 持て虎を防ぎて傷なくたゞ虎死にたりとたきけよと叫ひ
 たり時揚香年十五なるが父の命をすて虎を助け
 来りし虎もけりし虎もけりし虎もけりし虎もけりし虎も
 を助けられよと猛く怒り虎の首を斬りて虎を殺し
 けり虎敢て食んとせざりかいつくおそれるる事なれ
 けりしとぞ其所の太守孟肇之とて父は事をすて大に
 稱歎し揚香を采とあへ其名をあらはせり揚香は孝子
 の志は猛と獸と敵と事なりけり父の擁護し終るなり



黄香

扇枕温衾

後漢^{かん}に黄香^{くわうかう}字^{あざな}ハ文强^{ぶんきやう}ハ經典^{きんけん}を學^{まな}び道術^{だうじゆつ}と究^{きう}め文章^{ぶんしやう}と
 能^{あた}くを以^{もつ}て其名^{なな}高^{たか}し九歳^{くわいさい}の時母^{ときはは}を失^{うしな}ひ其悲^{かな}もよや
 せむしうへ命^{いのち}危^{あやふ}きよまじり素^{もと}衣^いをかきま^まして婢僕^{めいぼ}なきをば
 父^{ちち}に泣^なつて躬^{こみ}ら力^{ちから}以^{もつ}て夏^{なつ}の暑^{あつ}きよは夕^{ゆふ}に床^{とこ}を扇^{あふ}
 ぎ枕^{まくら}を涼^{すず}しく冬^{ふゆ}の寒^{さむ}きよは夜^よに床^{とこ}のひやあなうん事^{こと}以^{もつ}
 おまひ身^みを以^{もつ}て床^{とこ}のひやあなうん事^{こと}以^{もつ}て父^{ちち}を以^{もつ}て臥^ふさうし
 ろをはらうし其名^な世^よに高^{たか}し及^{およ}ぶもあまてこそ
 然^{しか}うかぬか侍^{しやく}養^{やう}を以^{もつ}て其名^な世^よに高^{たか}し及^{およ}ぶもあまてこそ
 以^{もつ}て尚書^{しやうしよ}令^{しやう}魏郡^{ゑいこん}太守^{たうしゆ}にまじり子の黄瓊^{くわうじゆう}其子孫^{こそのまご}も高^{たか}
 官^{くわん}に昇^{のぼ}進^{しん}せり禮記^{らいき}に為人^{たうじん}子^こ之^の礼^{らい}冬^{ふゆ}温^{あつめ}而^{して}夏^{なつ}清^{しみ}昏^く定^{ぢやう}
 而^{して}晨^{あした}省^{しやう}矣^{なり}といふハ孝子^{かうし}に勤^{つと}むるはうして黄香^{くわうかう}れめ是^{こゝ}也^{なり}



姜詩 湧泉躍鯉

後漢の姜詩は母に侍りて至孝なり。其妻龐氏も亦姑の
 意に順ひ命に逆らふ事なく。母井の水をこぼし江の水をのむ
 事なぬ。姜詩が家近く清江なるとし。龐氏曰く「我が
 子に清江の水を汲せしむ。或日風をけしきて水く
 らくきくば姑の怒るのまうくくを姜詩其怒るを体
 めんがうめ素を遣出しく。龐氏も其恨をせむ父母が
 りてうく。龐家の老婦をたのめてを扶杖を事し姑
 のぬめをのて我短髪を悔てびえり。又母生魚の脍と
 りきを知て我短髪を悔てびえり。又母生魚の脍と
 このころを常と調してまめく。後舎に側は清泉湧て其味
 江水も異なりんば水より毎日双鯉出て供養の勞を助く也



老萊子 戲綵娛親

老萊子ハ周の代楚國の人なり。女に時より孝行を尽して
 父母をやいなひ甘脆とて味いろまくて老て齒なきこと
 ろく食せしむるの如きこと供ふる。其身已七十にして父
 母存命なり。我老衰と父母の前してあはけして漸
 身れ老をうつつてはひやうおひ給ふん事。おせしてつひ
 縵くつ小兒の衣を被せりて。をまおひの裁せ給親乃衣
 して。ふるまひほま老うお強く被せりて。嬉しまあけ
 ず。或時食をこもして。と跌さたあきて小兒の味真
 小をたるとまど。かくして父母の心をたづねらる。その志れ
 篤し。或はまよべ。後楚國乱まれば蒙山の南に耕作し。
 老萊子といふ書は著して。志を述へ其終るをさしす。



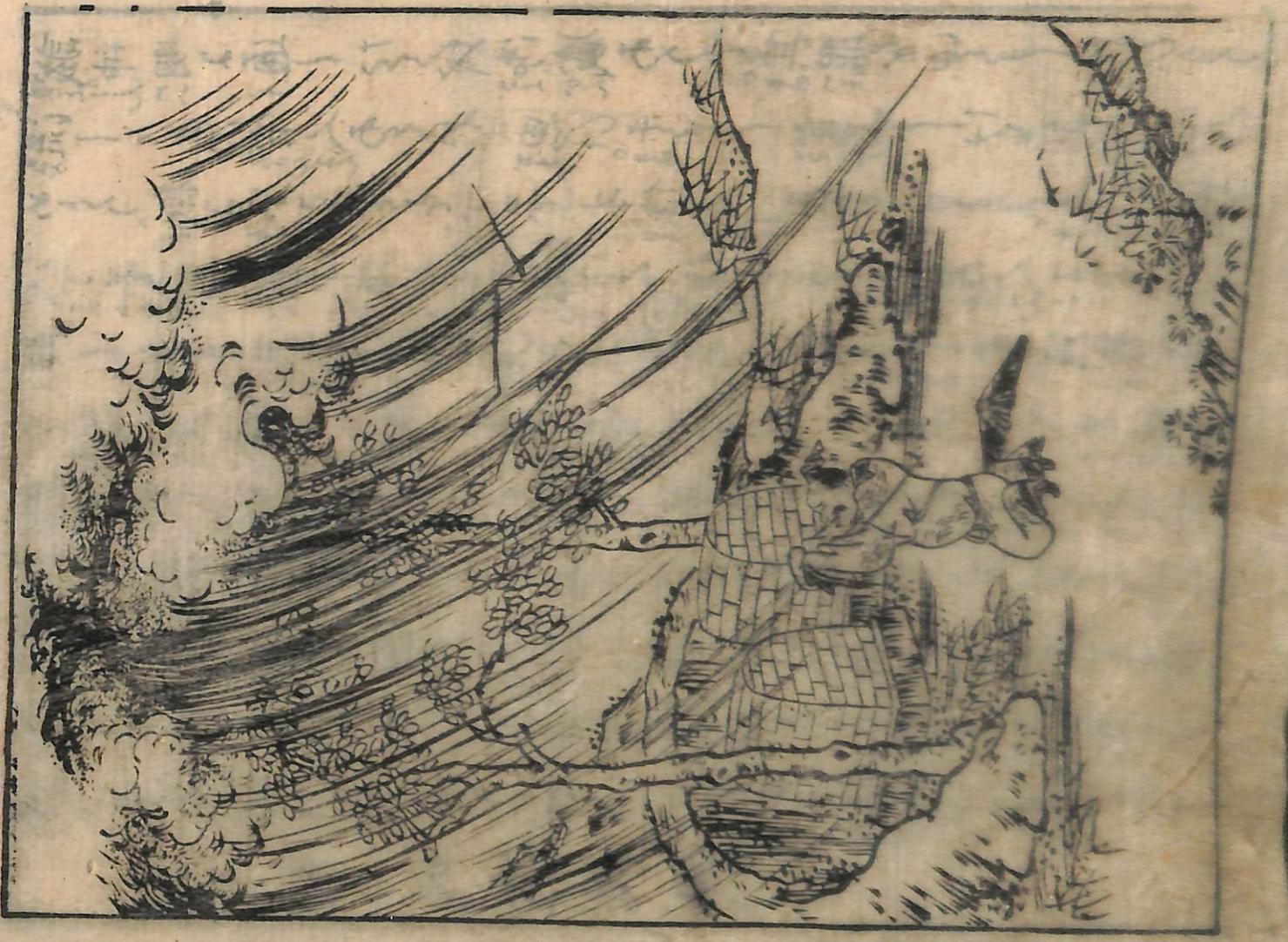
蔡順 拾椹供親

後漢の蔡順字ハ君仲ハ汝南の人ナリ。幼少ヨリ父ヨリ母
 二はへて。孝を尽せり。時王莽とハ逆臣。天下をぬき。兵
 乱ちつ。飢饉一々。母の養れ。椹を拾へ。其器
 を二つ持て。実の赤と。白と。白と。赤と。赤と。赤と。赤と。
 といふ盗人も。入て。白と。白と。白と。白と。白と。白と。白と。
 馬ハ熱して。味甘き。母の喜ひ。供へ。赤と。白と。白と。白と。
 己が食と。母の。母の。母の。母の。母の。母の。母の。母の。
 牛の片股。共へて。去り。其後母死。い。葬。其。其。其。其。其。其。其。其。
 火出て。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 よいの。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。火。
 法。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。其。



王哀 聞雷泣墓

晋の王哀字、偉元、少き時より心は操を立、博學多能なる
 人なり。父王儀、罪なくして文帝よ害せしむ。終身、西に
 向て坐せしむ。文帝再々都に其朝よ臣たる事と示し、父母の墓
 の側よ小序を造り、朝々墓前よ至りておし跪き、信を植へ
 る。柩樹を攀して父の罪なきと死せしむ。泣き悲しむ。涕涙
 して柩樹終よ抱く。又母存生の時、耳、雷を畏しむ。雷
 鳴る時、空を、手執墓前よ至りて哀
 あり。哀しむありしむて生る事なき。其身、隱居
 し。往徳を生徒よ授く。侍往、参我、益の哀。父母生、我
 劬勞とふよ。至て復て涙を流し、人門よ出、爲と
 除さる。人素く西貴、死し、身、耕して其操守る。



丁蘭 刻木祀親

漢の丁蘭は河内の人なり。父を喪ひ。思慕のふり
 きたり。本は刻て其かたちを造る。朝夕空省のほろふ
 けり。朝夕空省のほろふ。朝夕空省のほろふ。朝夕空省のほろふ。
 家は張叔なるものありて。常にこれを嘲弄し。けり。成
 時丁叔がるちをうらひ。つと本像のあはれ。大に罵杖
 をひて。其頭をうち。丁叔かへて。いつものめく。本像と
 拜し。くちよ其面よりこびさる。色あり。妻亦を事。我告る
 ば。丁叔大に怒り。張叔と打擲して。傷らる。友人來り。か
 り。獄に下さんと。丁叔本像は別を告る。本像涙を
 流し。官人あそれと思ひ。言上し。けり。孝心乃
 誠神明と通じ。たれ我涕感ありて。其罪をゆるし。終ひる



孟宗泣竹生笋

吳の孟仁宗と云字、恭武江夏人、年少して字、
 孫皓よはつて司空となす。吳滅て晋に降、
 監池司馬として池奉行となす。ふさる網之魚を捕、
 母よおろしに母をけを推還して、其奉行守
 之魚を捕我よおろし事、他人官其魚を盗取、
 疑を生じ、之を其職を失問、かゝるを
 らんけしめ、負母とて、母を食ふ事、
 母よおろし病、目熱、おろし、
 るよ孟宗孝心、
 泣く、
 網



慈惠大師
山王七孫の和歌

閑くくとうたせのゆををふふ
 ましうらたつことまざるありたり
 月さうでいりていりるありのものと
 うきよみ中よまゝゝゝゝゝゝゝ
 何ぞとれんがこそげふむのや
 足さるふまうらうのうらゝゝゝ
 きけがこそをこそ抑えれぬまら
 とうらうのきかふまざるありたり
 り後なるあはりのゆををふふ
 人のあゝきけいゝゝゝゝゝゝ
 月さうでいりていりるありのものと
 母しりざうことをまざるありたり

右大坂河門御多後画製



大坂書林鹿島献可堂藏版目録

伊勢参宮名所志 六冊

七才子詩集 小本 一冊 發蒙書東式 三冊

同 掌故 三冊 尺牘ノヒキ、メロウキ、尺牘、四元、熟字、名宛名乗、書式、初筆、知書、多、名宛

同 註解 二冊 茶道七事式 二冊 傷寒五法 五冊

同 國字解 二冊 町見辨疑 五冊

同 七律解 二冊 三界一心記 一冊

詩法授幼抄 小本 一冊 將棊指覺抄 小本 二冊

斧介集 詩歌之書 全 一冊 勝地百益 小本 一冊

詩對類語 全 一冊 狂歌芳分册 一冊

詩家法語 全 一冊 農家心得草 一冊

絶句律平仄位置、圖ナラヒ三詩作らる、ニナルキ、フナレシ、熟語ヲアラム

同 六窓抄 三冊 同 盆石圖式 二冊

同 愚問賢注 一冊 同 盆石圖式 二冊

和歌桐火桶 二冊

氣元礼法 一冊

名義新編 二冊

同拾遺 二冊

其角新集 二冊

同元集 四冊

同元集 四冊

貞徳紅梅千句 二冊

同抱云百首 一冊

家集

傾門日渡句 一冊

芭蕉及古文 二冊

休六 雅文消息 一冊

半化坊叢書 二冊

撰長七抄集 一冊

成七抄をよせて 一冊

俳諧小づち 一冊

同まがり 一冊

同四季歌 二冊

芭蕉油紙 一冊

同小舟 一冊

同松楓抄 一冊

俳諧やぶら 一冊

俳諧の道通 二冊

同秋 一冊

同流 一冊

俳諧系考 二冊

同源川 一冊

同新源川 一冊

同百人句 一冊

俳諧句集 一冊

瓢水句集 一冊

西賢集 一冊

俳諧分載 一冊

同二秋 一冊

俳諧八重垣 小橋園水著 一冊

釋迦如來一代化は吹 全八冊

三教經系經 四冊

三聖利益傳 五冊

漁倉屋中同書 一冊

多祥同書 一冊

日 洋記 三冊

經學字字海便覽 三冊

唐詩帖 一冊

古詩帖 一冊

批の記 一冊

國字帖 一冊

熟字府 二冊

はなとく 八冊

和音初学抄 二冊

おとけり 一冊

非なるべし 二冊

播磨巡り 一冊

被面密鑑 二冊

便用瓶 一冊

煎茶仕用集 一冊

治痢神書 一冊

万病回春 一冊

卜養程秋集 一冊

程野公集 一冊

天文八卦抄 一冊

漁倉実地 一冊

歌曲早引酌さう 一冊

和漢朗詠集 二冊

刪笑府 一冊

庭訓社末抄 二冊

裁衣便覽 懷中折本

東野州聞書 全三冊

茶器群芸集 全三冊

繪本二十四孝 全三冊

同増補二十四孝 全一冊

諸國武邊嘯 全六冊

開卷一笑 全三冊

茶湯名物記 全三冊

俳諧浪卷風流 全三冊

俳諧初心公 全一冊

俳諧三部経 全三冊

花鳥文庫 全五冊

漆播至山画 全三冊

右の二十に孝と実流散事と散形と散形

と散形とを散形と散形と散形と散形と

散形と散形と散形と散形と散形と散形と

